

ずっと地球で暮らそう。



# 2006

2005年度コスモ・ザ・カード「エコ」活動報告書

第4期：2005年4月1日～2006年3月31日

## ごあいさつ

コスモ・ザ・カード「エコ」会員の皆さまと、「ずっと地球で暮らそう。」プロジェクトをはじめから、今年で5年目になります。ひとえに、会員の皆さまのご支援や激励をいただきながら、今日のプロジェクトをつくりあげることができました。本当にありがとうございます。今では、約81,000名の会員の皆さまが、私たちとともに地球環境への想いを共有し、そして昨今の環境問題を憂い、ご支持いただいています。

私はコスモ石油エコカード基金の理事長に就いて2年目になりますが、昨年度は1年目以上に地球環境への想いを強くし、環境問題の深刻さも実感した1年間でした。

2005年に新たにスタートした「秦嶺山脈森林生態系回復プロジェクト」は、森と生態系を回復する中国での環境貢献活動です。プロジェクトパートナーの西北大学（中国西安市）や、たくさんのボランティアの学生さんと協力し、秦嶺山脈で最も森林を破壊しているとされる分断道路（旧林道）に植林しています。私は昨年6月にプロジェクトの発足式に参加し、山中の活動現場にも足を運んで参りました。

発足式は、プロジェクトにボランティア参加される学生さんや地域政府の方々など、約200名が西北大学の講堂に会し開催されました。私は学生さんを前に講演する機会を得て「ずっと地球で暮らそう。」プロジェクトなど1時間ほどご紹介しました。終了後には答えきれないほどのご質問があり、十分に回答できなかったことがとても残念でしたが、国境を越えても地球環境への想いは変わらないと確信することができました。

その翌日には、西安市から舗装されていない道路を車で約4時間走りつづけ、車のタイヤが外れてしまうのではと心配になりながらも、やっとの思いで秦嶺山脈に到着しました。3,000m級の山々が連なる見事な眺望でしたが、その山々を白く分断する今は無用の道路を目の当たりにすると、複雑な思いがしました。プロジェクトサイトまでの道中に、「秦嶺山脈では過度な森林伐採が行われていた時期があり、その結果、稀少動物が移動できなくなってしまう、種の存続が危ぶまれている。」と聞いていたからです。

実際にプロジェクトサイトを訪れ、豊かな地球環境を蝕む小さな行為が自然環境に何らかの影響を及ぼしている事実も知りました。また、会員の皆さまや多くのボランティアの方々と同じ想いのもとに集まり、これらのプロジェクトができあがっていることも実感しています。

最後に、私たちと地球環境への思いを同じくし、今まで「ずっと地球で暮らそう。」プロジェクトをご支援いただいた会員の皆さまに心から感謝申し上げますとともに、今後も変わらぬご協力をいただけますよう、よろしくお願い申し上げます。



コスモ石油エコカード基金

理事長 近藤 直正



2006年度の参加型企画（エコ会員の皆さま限定）！

## 2006年度新プロジェクト 「植林のための苗木供給基地プロジェクト」 を富良野からスタート

2006年4月から北海道富良野で、新たなプロジェクトが始まりました。

「ココロと大地に種まき」をキャッチフレーズに、環境教育プログラムの体験やボランティア参加していただけるプロジェクトです。

詳しくは、以下からご覧ください。



**URL** >>> [http://www.cosmo-oil.co.jp/press/p\\_060509\\_2/index.html](http://www.cosmo-oil.co.jp/press/p_060509_2/index.html)

## インターネットムービー

普段日本で生活していると気づきにくい環境問題ですが、コスモ石油ではより多くの方々に地球環境の大切さを知ってもらいたいとの思いから、子どもたちと一緒に考えることのできるインターネットムービーを制作しました。今までの「地球のためにできること」のほかに2006年3月から「小笠原環境学校」もご覧いただけます。



**URL** >>> <http://www.cosmo-oil.co.jp/netmovie/index.html>



## エコカード基金に コスモトレードアンドサービス参加

コスモ石油のグループ会社であるコスモトレードアンドサービスが環境配慮型新バッテリー「Eco Dyna」の販売開始（2005年12月）にあたり、その売上の一部をエコカード基金に寄付し、活動に参加することとなりました。



**URL** >>> <http://www.cosmo-trade.com/goods/ct0027/rf0027.html>

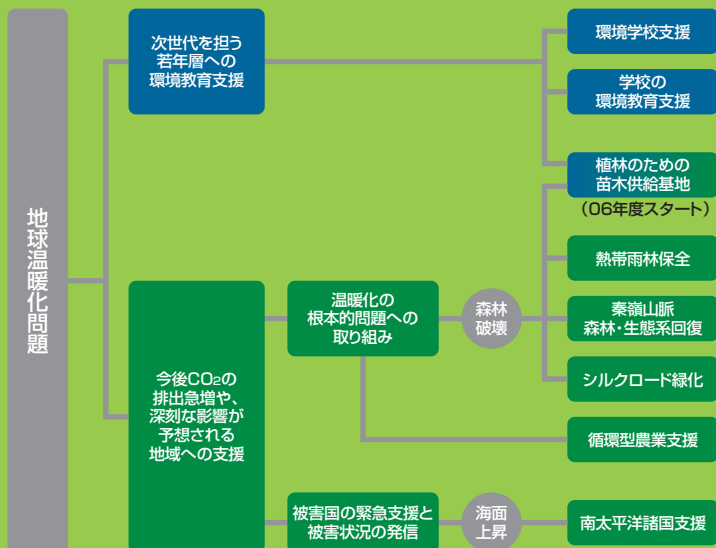


# 「ずっと地球で暮らそう。」プロジェクト

「ずっと地球で暮らそう。」プロジェクトは、  
コスモ・ザ・カード「エコ」会員の皆さまとともに、  
NGO/NPO・地域社会・政府の方々と一緒に取り組んでいる  
地球環境貢献活動です。

「ずっと地球で暮らそう。」の合い言葉には、  
私たちが暮らす美しく豊かな地球を  
ずっと残していきたいという願いが込められています。

## → 持続可能な社会の実現



# プロジェクト



コスモ・ザ・カード「エコ」

## プロジェクトのコンセプト

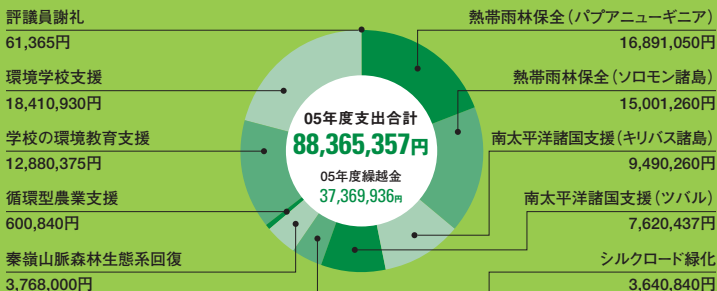
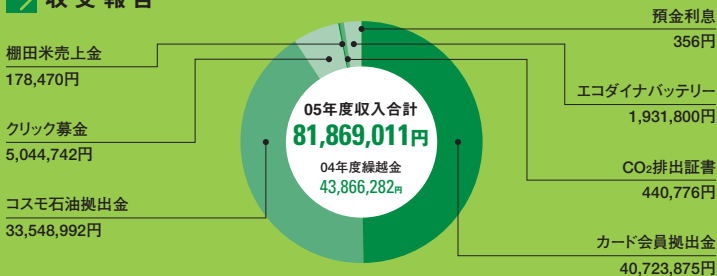
「ずっと地球で暮らそう。」プロジェクトは、この合い言葉に象徴される「持続可能な社会（地球）の実現と発展」を目指しています。石油と最も関わりの深い環境問題「地球温暖化の防止」を中心に、環境問題にも密接に関係している課題「貧困」「食糧難」「開発」「生産/消費形態」「教育」など、本質的な問題解決に繋がるアプローチを重視しています。

## 2005年度トピックス

### 第3回プロジェクト評議会を開催

エコカード基金の運営やプロジェクト内容について、外部の専門家の方々からの意見を伺う場として設置した「プロジェクト評議会」も、今回で第3回となりました。2005年度は「ずっと地球で暮らそう。」プロジェクトをどのようにコスモ・ザ・カード「エコ」会員の皆さまにご報告していくのか、参加できる機会をつくっていったほうが良いのではないかなどコメントもあり、2006年度に会員の皆さまを対象とした参加型企画を準備することとなりました。

## 収支報告



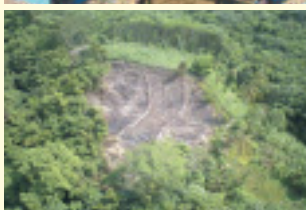


## 熱帯雨林保全プロジェクト

Papua New Guinea

Solomon Islands

熱帯雨林の保全を目的に、  
定地での循環型有機農業の普及を支援しています。



左上) 陸稲の苗を植える様子  
左下左) 全体ミーティングを行う研修生  
左下右) 有機農業の技術指導を受ける研修生  
右上) 脱穀するスタッフ  
右下) 焼畑農業の跡地

豊かな自然環境が残り、多種多様な動植物が生息する熱帯雨林で、定地型の循環型農業の普及促進をしています。熱帯雨林は二酸化炭素の吸収源としても貴重な資源ですが、近年の人口増加や商業伐採に伴う過度な焼畑農業により、自然の再生スピードを越える熱帯雨林の破壊がすすんでいます。これまで、プロジェクトパートナー(\*1)の方々とともに、精米機設置(\*2)や有機農業研修の機会提供などを続けてきました。

\*1 バパニューギニア:財団法人オイスカ、ソロモン諸島:NPO法人APSD

\*2 バパニューギニアの精米機設置サイト:クランブ、ウボル、CIS、バルマルマル(以上東ニューブリテン州)、アミオ(西ニューブリテン州)

## ➔ 「循環型の有機農業普及」4つのステップ

- 第1ステップ 知識や技術の習得(実地研修など)
- 第2ステップ 有機農業普及の基礎的な設備導入(精米機設置など)
- 第3ステップ 循環型有機農業のインフラ整備(有機肥料小屋や養豚場など)
- 第4ステップ 持続的な有機農業普及(地域における自立的運営など)

## パプアニューギニア

### ➔ 2005年度の活動

#### 自立運営に向けた取組みを始めました。

研修所の卒業生が中心となり、プロジェクトサイトやその他の村々(計12ヶ所)で有機農業普及に向けた研修会を開催しました。研修会に参加したたくさんの受講生が、熱帯雨林保全の大切さを学び、定地型有機農業の技術を習得しました。そのほか、ボカシ(有機肥料)小屋建設や、ノニジュース加工技術習得、農業マネジメント研修などを行いました。



プロジェクトサイト(CIS)に設置された精米機

### ➔ 今後の活動

有機農業の普及を目指し、有機農業研修(技術習得など)の開催、バイオトイレ(有機肥料づくり)や給水施設(養豚・養鶏場への給水)の設置、ココボ自然環境公園(地域への有機農業普及啓発)の建設などを行います。

## ソロモン諸島

### ➔ 2005年度の活動

#### モデル研修農場で初めて6ヶ月間の研修機会を50名の研修生に提供しました。

モデル研修農場である「パーマカルチャーセンター」で、今まで学校運営や講師の経験がなかったスタッフが、パプアニューギニアで研修し、それぞれの村で経験を積み、初めて研修生を受入れました。12月にはほぼ全員が卒業を迎えることができました。そのほか、研修生への有機農業サポートや、灌漑工事の実施、養蜂技術の習得などを行いました。



授業を熱心に受ける研修生

### ➔ 今後の活動

モデル研修農場が開校し、有機農業の基盤が整いつつあります。これからは、施設の充実に加え、視覚や味覚で地域の人たちが有機農業を体感できる「デモンストレーションセンター」をマライタ州の州都アウキに設置し、「有機農業普及」に向けた活動を行います。

## 南太平洋諸国支援プロジェクト

地球温暖化に起因すると言われる、  
海面上昇による危機に直面する  
南太平洋諸国を支援します。

Republic of Kiribati ○

Republic of Tuvalu ○



左) マングローブの幼木 中) マングローブの植え方を教わる子どもたち  
右) キリバスに生育しているマングローブ

## キリバス共和国

平均海拔が1m程度しかない同国は、温暖化に起因する海面上昇の被害を真っ先に受ける国の一つです。既に、井戸水に海水が混入して飲み水が不足したり、気候が変化し、降水量が増加することにより、主要産業である製塩業への影響など生じています。エコカード基金では雨水貯蔵タンクや、製塩の乾燥に役立つ、プラスチックトレイを寄贈しました。また、地域の方とともに環境意識を高める活動として、防潮堤にもなるマングローブ植林の準備を進めてきました。

## ➔ 2005年度の活動

現地の子供たちや住民、政府と一体となったマングローブの植林を実施しました。

パートナーであるNPO法人APSD、国際マングローブ生態系協会 (ISME) とともに9月、防潮堤としての効果もあり、生態系を豊かにする働きのあるマングローブの植林を実施しました。4,800本に上った植林には現地バレアウマイ小学校の子供たち、村の方々、トフィガ環境土地農業開発大臣をはじめとする同国政府関係者など約380人の参加があり、現地の環境への関心の高まりを感じさせました。

## ➔ 今後の活動

現地の子供たちや地域住民、政府が一体となった植林活動を継続するとともに、地域社会との協働をさらに推進していく予定です。また、より効果的に理解が深まるよう、小学校で利用できる環境教育教材の制作を進めていきます。





左上) 海岸浸食の影響を受けるココ椰子の木  
右上) 家庭で使われている雨水貯蔵タンク 右下) 寄贈した給水車

## ツバル国

キリバスと同様に海拔が低いツバルは、井戸水への海水混入などの問題は同じですが、国土が小さいため、さらに深刻です。雨が降らないときには政府所有の大きな雨水貯蔵タンクや、海水淡水化装置が、貴重な飲料水の供給源となりますが、その水を運ぶ給水車が足りない状況でした。エコカード基金では度重なる現地での調査を行い、ツバルの人々や政府との対話の中で支援策を検討してきました。

### ➡ 2005年度の活動

**飲料水およびその供給手段の慢性的な不足に悩むツバルへ、緊急支援として給水車を寄贈しました。**

エコカード基金では、ツバル政府からの要請を検討した結果、特に生命の源である水の供給が首都のあるフナフチ島で深刻な状況にあることに注目し、この対策として9月にツバル政府へ給水車を寄贈しました。寄贈式にはツバル首相も出席するほどの関心の高さでした。給水車は早速、水不足に悩む現地の人たちの各家庭に朝早くから夜遅くまでフル稼働で命の源となる飲料水を供給しています。

### ➡ 今後の活動

ツバルは地球温暖化の影響の最前線に位置しています。エコカード基金では今後もツバルの住民や政府の方々との対話を続け、ツバルで起きている事象を日本の社会へ発信するとともに、可能な支援を検討します。



砂漠化の防止や地域の持続的な発展を目指し、植林活動を進めています。



一面に広がる植林サイト



植林する農家の人たちと散水車



2004年に植林し、成育した木

広大な大地「シルクロード」上の黄土高原では、急速な砂漠化が進んでいます。一昔前までは、陝西省西安市付近から新疆ウイグル自治区まで豊かな緑が広がっていたと言われていたのですが、長い年月を経て、生活のために人が木を伐採したことが砂漠化の原因とされています。私たちは、NPO 2050とともに、西安市近郊から乾燥地域に強い沙棘（サージ）を主に植林し続けています。

## ➡ 2005年度 の 活動

**40ヘクタールの大地に136,000本の苗木を植林しました。**

2004年度までの沙棘植林の経験をもとに、2005年度も地域農民が主体となった植林活動を実施してきました。2004年度に植林した沙棘の中には、植え方や管理のばらつき・苗木の未熟さから、活着率が良くなかったものも一部あり、北京から専門家を招聘し、再植樹や優良種の沙棘育成を行いました。活着率向上には、他樹種との混植が望ましいこともわかりました。

## ➡ 今後の活動

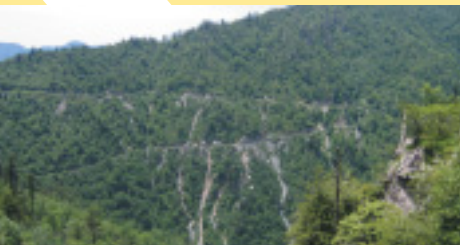
シルクロード沿いに30haの沙棘の植林を目指し、その後も定期的に活着率などをモニタリングします。「陝西省—甘粛省—新疆ウイグル地区」のネットワークを通し、沙棘の実の加工や販売など、地域農民の貧困解消の準備も行います。



## 秦嶺(しんれい)山脈 森林・生態系回復プロジェクト

© China

森林伐採のつめ跡の残る秦嶺山脈で、  
CO<sub>2</sub>吸収源である森林と、  
豊かな生態系の回復を目指します。



つめ跡の残る秦嶺山脈



旧林道への植林

パンダやキンシコウなど、多様な野生動物が棲む秦嶺山脈ですが、過去の森林伐採の影響で動物の住む森は荒れ、種の絶滅が危ぶまれるようになっていきます。中国陝西省西安市にある西北大学や上海動物園とともに、学生や村民などたくさんの方々の協力を得て、野生動物の生活環境を分断し、繁殖を妨げる要因となっている旧林道(総延長194km)に木を植え、森と生態系の回復を図るプロジェクトを、2005年度からスタートさせました。

### ➡ 2005年度の活動

**18kmの林道に6,000本を植林、大小さまざまな動物達がこの旧林道をまたいで森を移動、環境が改善している兆しを確認できました。**

西北大学李教授と上海動物園の熊園長は、絶滅危惧種であるキンシコウの専門家です。個体数減少の大きな原因が森林の破壊、特に森を分断する林道ではないかとの研究結果を得て、今回のプロジェクトはスタートしました。05年度は林道全体の9.29%に植林。主に、近隣の森から幼木を移植したのでその後の生育も良く、90%の幼木は根が張ったようです。プロジェクトの立上げに際して、エコカード基金の理事長が西北大学で講演し、聴講した学生を中心に、264名がボランティアで植林の手伝いをしてくれました。

このプロジェクトの中国での関心は高く、様々なメディアに取り上げられ、12月に行われたWWF中国と陝西省森林局共催のシンポジウムでも報告されました。

### ➡ 今後の活動

引き続き、林道への植林と生態系改善状況の観察を続けます。06年度は9,000本の植林を目指します。



## 循環型農業支援プロジェクト



Philippines

キャッサバ植栽やエリ蚕養蚕を通し、  
持続的な地域社会の構築を支援しています。



プロジェクトサイト、パラワン島は緑豊かな島であると同時に、同国の中でも最も開発の遅れた地域とされています。その地域で生計を営む地域農民や漁民の人たちにとって、生活の糧を得るために森林伐採や焼畑農業に従事する人たちも多いとされています。地域の持続的な社会基盤の構築を目指し、エリ蚕養蚕の技術協力やキャッサバ植栽などを行い、環境保全を図っています。



左上) 地機(じばた)を使った糸紡のトレーニング  
右上) すくすくと育つエリ蚕  
下) カヤサン村のキャッサバ

### ➡ 2005年度の活動

**先住民族のバラック族などを対象に、  
エリ蚕養蚕などのトレーナーズ研修を行いました。**

サポーターであるタグバライ財団の協力のもと、パラワン島の首府プエルトプリンセサ市で、2005年にエコカード基金が設置した地機(じばた)を使用し、糸紡ぎや編み物などのトレーナーズ研修を開催しました。当研修会でエリ蚕養蚕などの技術を学んだトレーナーが、他のプロジェクトサイト、港町のポートバートンやバラック族が住むカヤサン村で研修会を実施しています。

### ➡ 今後の活動

活動期間が短いポートバートンやカヤサン村では、エリ蚕養蚕や糸紡ぎに着手し始めたばかりであり、定期的な技術支援を継続し、「売れる」製品づくりを目指します。さらに、販売流通網の確保も模索します。



## 学校の環境教育支援プロジェクト

「学校」が行う環境教育を、  
日本各地のNGOとともに応援しています。



田植えをする子どもたち(沖縄)



木を観察する子どもたち(北海道)

子どもたちの中に自然を大切に思う心を育み、自発的な行動に繋げることを目的に、学校で行われる環境教育のお手伝いを続けています。日本環境教育フォーラムとともに、学校と、環境教育のノウハウを持つNGOのマッチングを行うとともに、経験の共有や情報発信のため、ホームページEE Kidsを作り、運営しています。

## ➔ 2005年度の活動

**2005年度は北海道から沖縄まで、6校の小学校のお手伝いをしました。**

03年度のスタートから、支援校は全部で11校になりました。学校によってテーマは様々ですが、体験と授業を合わせ、「自分たちに出来ること」を考えて発表するプログラムになっています。先生方や子どもたちから、ご感想やお礼の言葉などを頂いております。残念ながらこの紙面でお伝えできませんが、EE kidsのホームページ(「information」参照)でぜひご覧ください。

学校	NGO	テーマ
北海道：札幌市立山の手南小学校 5年生	NPO法人ねおす	身近な自然から考える
千葉：市原市立京葉小学校 5年生	NPO法人千葉自然学校	豊かな森作り
神奈川：川崎市立荻宿小学校 6年生	NPO法人APSD	棚田農業体験から学ぶ 農業・食糧・環境問題
神奈川：川崎市立桜本小学校 6年生	NPO法人APSD	
三重：勢和村立勢和小学校 6年生	大杉谷自然学校	海のSOS
沖縄：那覇市立銘苅小学校 5年生	グループエコライフ	農業・環境体験から 生活を考える

## ➔ 今後の活動

06年度は札幌(2校)、千葉、東京、川崎(2校)、三重、広島、鹿児島島の9つの小学校のお手伝いとEE Kidsの運営支援に加え、環境教育を行えるスタッフ育成に挑戦します。



## 環境学校支援プロジェクト

発信し、行動する人、  
「環境メッセンジャー」を育てています。



自然の大切さを学ぶ子どもたち(白神山地)



富士山を目指し歩く子どもたち

「体験を伴った知識を持ち、あふれる情熱で環境活動し、発信できる人、『環境メッセンジャー』の育成に、アルピニスト野口健さん率いるNPO法人セブンサミッツとともに取り組んでいます。環境問題は人間社会とともに結びつき「人間が生きること」と「環境を守ること」のバランスが大切です。環境学校では、それらのバランス感覚を重視した環境教育を目指しています。

## ➔ 2005年度の活動

**全国7箇所で、100人を超える参加者を集め、環境学校を開催しました。**

各環境学校の様子を写真や参加した子どもたちの声とともに、臨場感たっぷりにホームページでお伝えしています。また、04年の小笠原環境学校をコスモ石油のネットムービーにしてホームページから配信しています。ぜひご覧ください!

**環境学校公式ページ** >>> <http://www.actions.jp/school/>  
**ネットムービー配信サイト** >>> <http://cosmo-oil2.netcinema.tv/>

開催地	日程	参加者数	テーマ	Actions
佐渡	05年 3月、7月、8月	約90人	故郷の自然を知る	地元の自然をガイドする
富士山	05年 7月25～28日	23人	ゴミ/外来生物を考える	富士河口湖町への提言
白神	05年 8月16～19日	12人	自然と人間の共生	ポスター貼り
志賀高原	05年 9月23～25日	21人	家庭で出来ること	環境宣言
東京	05年12月17～18日	28人	社会に伝える	エコプロダクツ展 ステージでの発表
西表	05年12月24～27日	11人	野生動物の保護 (エコツーリズムについて)	雑誌への発表
屋久島	06年 3月25～28日	12人	人と森の共生 (観光と環境/伐採の是非)	縄文杉の木工細工制作

## ➔ 今後の活動

06年度は富士山と佐渡、小笠原で予定しています。



## クリック募金で「ずっと地球で暮らそう。」プロジェクトに参加してみませんか？

「ずっと地球で暮らそう。」プロジェクトをひとつ選んでクリックすると、自動的にご本人に代わってコスモ石油がそのプロジェクトに1円を寄付する仕組みです。3年間で約12,333,898回のクリックがありました。



※クリックされる方にはお金はかかりません。※1日1人1クリックのみ有効。

**URL** >>> <http://www.cosmo-oil.co.jp/kankyo/charity/>

---

## エコカード基金 活動紹介

2006年7月に「ずっと地球で暮らそう。」プロジェクトなどの活動報告サイトが『コスモ・ザ・カード「エコ」広場』から『コスモ石油エコカード基金 活動紹介』にリニューアルされました。



**URL** >>> <http://www.cosmo-oil.co.jp/kankyo/eco/>

---

## 環境教育サイト「EE kids」

「学校の環境教育支援プロジェクト」に参加する子どもたちやNGO/NPOが、学校の枠をこえ、子どもたちの問題意識や体験を発表し合うウェブサイト「EE kids」を立ち上げています。当サイトは有名な環境情報サイト「環境goo」の協力を得て、たくさんの方々が気軽に使ってもらえるようにしています。



**URL** >>> <http://eco.goo.ne.jp/education/eekids/>

---

## メールマガジン

ネット会員にご登録いただくと、プロジェクト活動報告などの最新情報をお届けします。ご登録は、パソコンのメールアドレス・「エコ」カードをご用意の上、以下にアクセスしてください。



**URL** >>> <https://www.cosmo-thecard.com/ncd/ecopress/index.asp>

## CO<sub>2</sub>フリーガソリン

コスモ石油では、オーストラリア南西部で5,100ha（山手線の内側の広さ）のユーカリの森の育成を支援していますが、今までこの森が吸収したCO<sub>2</sub>71,489トンを排出権として取得しました。そのうち16,243トンの排出権を、2005年12月に会員の皆さまが給油されたガソリン・軽油から排出されたCO<sub>2</sub>に充当しました。石油を使うことは即ちCO<sub>2</sub>を排出することですが、石油を使わない生活は今の私たちには困難です。コスモ石油は、CO<sub>2</sub>フリーガソリンを通じ、皆さまと一緒に地球温暖化の防止について考えていきたいと思えます。

**二酸化炭素吸収証書** 以下は2005年12月に「エコ」会員の皆さまが給油されたガソリン・軽油から発生するCO<sub>2</sub>が、オーストラリアの森に吸収されたことをお約束する証書です。



表紙写真：青い海と空の下で元気に遊ぶツバルの子どもたち

この報告書は、コスモ石油提供で作成し、エコカード基金に寄せられた会員の皆さまの寄付金は使用していません。

制作

 **コスモ石油株式会社**

〒105-8528 東京都港区芝浦一丁目1番1号東芝ビル  
TEL 03-3798-3134  
<http://www.cosmo-oil.co.jp/>

  
古紙/パルプ配合率100%  
再生紙を使用

 **PRINTED WITH SOY INK™**